

専門分野			
社会心理学, 認知科学・認知心理学および感情に関する諸領域			
研究課題			
感情の分類理論について, 思考と判断における感情の役割, コミュニケーションにおける感情			
教育活動			
担当授業科目(学部)			
社会心理学実習(平成26年度～)			
大学基礎講座(平成26年度～)			
情報活用基礎Ⅰ(平成25年度～)			
情報活用基礎Ⅱ(平成25年度～)			
情報活用A(平成25年度～)			
情報活用B(平成27年度～)			
情報活用E(平成25年度～)			
担当授業科目(大学院)			
事項	年月	対象者	概要
教育方法の実践例			
C-Learningを利用した学生とのコミュニケーション	平成25年4月～	全受け持ち科目 受講者	本学で導入したC-Learningを積極的に活用し、出席管理・資料配布・質疑応答・意見聴取などを効率的に行った。
資格習得に対するフォローを通じた学生の動機づけ	平成25年4月～	情報活用A 情報活用B 受講者	Microsoft Office Specialistの資格取得を目標にした学習をすすめた。学内で資格試験を実施したり、実際に資格発行者とのやりとりを公表したり、就職活動への優位性を説明することで学生の資格取得へのモチベーションを上げた。
学科カリキュラムを反映した展望的授業内容の実施	平成25年4月～	情報活用E 受講者	心理学の習得において必須である心理統計の基礎的な内容を指導した。その際、なぜ統計が必要か、また、今後学習する心理学の中でどのような状況でデータ分析が必要か、などを解説した。
学科カリキュラムを考慮した指導	平成26年4月～	社会心理学実習 受講者	実習において、授業履修の為の前提知識が乏しく、個人の能力に大きな差が見られたため、復習や解説に時間をかけて授業を運営した。個人個人の能力に合わせ、各個人の適性に合わせた役割を振り分け、グループ作業なども工夫した。
作成した教材・資料集			
2013年度 情報活用基礎	平成25年4月	情報活用基礎受講者	本学で情報活用基礎Ⅰ・Ⅱを受講する学生のために作成された教科書。基本的な情報リテラシーについての内容の中で、Excelの部分を担当した
2014年度 情報活用基礎	平成25年4月	情報活用基礎受講者	上記2013年度版の改正版
その他教育活動上特記すべき事項			

研究活動				
著書・CD・論文・学会発表 ・演奏会等の名称	単共 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	共著者、共同発表者、共演者の名 前、曲名、担当頁、概要など
<b>著書・訳書・CD等</b>				
入門情報 リテラシー	共	平成 27 年 4 月	株式会社コロナ社	高橋参吉・喜家村奨・戸上良弘・原邊祥 弘・吉田大介 3 章・4 章担当
<b>学術論文</b>				
管理栄養士養成課程生の食品・料理重量見積力 向上プログラムの開発 (第 2 報): eラーニングに よる見積力の検討	共	平成 24 年 12 月	帝塚山学院大学人間科学部研 究年報	梅本真美・吉本優子・奥田豊子・ 原邊祥弘・吉田大介 Moodle を用いた見積り能力の向上訓 練において、繰り返し学習のシステムを 構築し、効果を検証した。
一対比較法を用いた一般的な感情価概念強度 の測定：不快感情による予備的検討	単	平成 25 年 12 月	帝塚山学院大学人間科学部研 究年報	原邊祥弘 一対比較法を用いて感情の次元説にお ける快不快次元の一般的認識に言及し た。
対人場面における感情情報の伝達誤差：感情 伝達に対する情報濾過機能の検証	単	平成 27 年 12 月	帝塚山学院大学人間科学部研 究年報	原邊祥弘 対人場面を想定した感情の伝達度合い と電子機器経由での感情の伝達度合い の差異を検証し、情報の濾過効果に言 及した。
<b>学会発表</b>				
The report in the experiment of emotional communication, in situation of one to one.	単	平成 28 年 7 月	ICP2016(第 31 回国際心理学 会議)	<u>Yoshihiro HARABE</u> 一連の感情伝達実験について報告し、 今後の課題と発展性を展望した。
日本版 ESCQ を用いた感情表現に特化した尺度 の検討	単	平成 27 年 9 月	日本心理学会第 79 回大会	原邊祥弘 対人場面における感情伝達について、 伝達者側の態度を測定する尺度を検討 した。
対人場面における感情コミュニケーションのすれ 違い度合いの検証	単	平成 27 年 6 月	日本感情心理学会第 23 回大 会	原邊祥弘 対人場面における感情伝達度合いを実 験的に測定し、その実態を検証した。
<b>演奏会・発表会</b>				
<b>その他の研究発表、演奏</b>				
管理栄養士養成課程生のための食品・料理重量 見積力向上教育プログラムの開発	共	平成 25 年 12 月	平成 24 年度 教育力向上に関 する共同研究報告書	吉本優子・奥田豊子・吉田大介・ 原邊祥弘・梅本真美 見積り学習教育プログラムにおいて、 ICT を活用した方法の完成を目的に、実 物食品、写真、e-Learning による方法 を検討した。
教育機関におけるクラウドコンピューティングの実 用性の検証	共	平成 25 年 12 月	平成 24 年度 教育力向上に関 する共同研究報告書	喜家村奨・戸上良弘・原邊祥弘・ 吉田大介 学内の ICT インフラとして、クラウドコンピ ューティングの実用性について、IT 企業 を交えて調査し、その可能性について言 及した。
<b>その他の著書、訳書等(雑誌原稿等を含む)</b>				
<b>研究助成金の受給状況</b>				
<b>科研費の採択</b>				

研究タイトル	助成金タイトル、支給元	研究代表者・分担者の区別
	支給額	支給年度
<b>その他の外部資金による活動</b>		
研究タイトル	助成金タイトル、支給元	研究代表者・分担者の区別
教育機関におけるクラウドコンピューティングの実用性の検証	帝塚山学院大学における教育力向上の取り組みに関する共同研究助成	分担者
	支給額	支給年度
	計 1,000,000 円 (500,000 円×2 年)	平成 23 年度・平成 24 年度
研究タイトル	助成金タイトル、支給元	研究代表者・分担者の区別
管理栄養士養成課程生のための食品・料理重量見積力向上教育プログラムの開発	帝塚山学院大学における教育力向上の取り組みに関する共同研究助成	分担者
	支給額	支給年度
	計 1,000,000 円 (500,000 円×2 年)	平成 23 年度・平成 24 年度
研究タイトル	助成金タイトル、支給元	研究代表者・分担者の区別
ICT を活用した食品・料理重量見積スキルアッププログラムの開発	帝塚山学院大学における教育力向上の取り組みに関する共同研究助成	分担者
	支給額	支給年度
	500,000 円	平成 25 年度
その他研究活動上特記すべき事項	年月	概要
<b>学内委員等</b>		
就任期間	機関名・委員名・役職名	
平成 23 年 4 月～平成 25 年 3 月 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	メディアセンター運営委員 ICT センター運営委員	
平成 23 年 4 月～平成 25 年 6 月 平成 26 年 4 月～平成 28 年 3 月	高大連携推進委員(住吉・泉ヶ丘) 高大連携委員(内部・外部)	
平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月	授業評価アンケート作成プロジェクトメンバー(授業評価アンケート作業部会メンバー)	
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月 平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	オープンキャンパス委員 オープンキャンパス運営委員	
平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制設備整備事業プロジェクト委員	
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	入試運営委員	
平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月	入試広報委員	
平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月	入学前教育運営会議メンバー	
平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月	アドミッションセンター員会議メンバー	
平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月	大学ホームページ WG メンバー	
平成 26 年 2 月 平成 27 年 3 月 平成 28 年 2 月	人間科学部選出評議員選考管理委員委員長	
平成 26 年 10 月 平成 29 年 2 月	人間科学部選出評議員選考管理委員	
<b>社会活動</b>		
<b>学会役員</b>		
就任期間	学会役員名	
2014 年 4 月～現在	日本心理学会 若手の会運営委員	
<b>公開講座</b>		

講座名、講演タイトル	単共 の別	年月	場所	概要
成人大学講座『心の健康の今』第3回 現代のコミュニケーションと心理学	共	平成28年5月	大阪狭山市立公民館	成人大学講座にて、近年変容しているコミュニケーションの移り変わりについて、手段・情報量・感情などの伝達をテーマに講演した。
平成28年度 帝塚山学院大学 教員免許更新講習「教師のためのICTリテラシー講習」	共	平成28年8月	帝塚山学院大学	教育職員免許普通免許状取得の基礎資格科目である「情報機器の操作」の学習内容について解説し、実務として活用できる表計算ソフトの使用方法の実践を指導した。
<b>学外機関委員等</b>				
<b>就任期間</b>		<b>機関名・委員名・役職名</b>		
<b>その他、学会や学術的団体での活動、社会活動上特記すべき事項</b>				
<b>海外での活動</b>				
<b>海外での教育、研究、大学運営、国際貢献にかかわること</b>				
<b>期間</b>	<b>国名</b>	<b>概要</b>		